

比例定数削減・憲法審査会始動を許すな！

5・3実行委員会が院内集会



臨時国会開会日の一月一日、五・三憲法集実行委員会が「憲法を生かそう！院内集会」を開催、市民団体代表ら一〇〇人が参加しました。集会では、日本共産党の穀田恵治さん、社会民主党の福島瑞穂さんが政党を代表して国会情勢を報告、「開会冒頭の院内集会に、いつも励まされてい

る」等と挨拶、参加した無所属の糸数慶子議員、日本共産党、民主党の議員が一言づつ国会をたたかう決意を語り、発言しました。

次に各団体代表が決意を表明。憲法会議代表として、新婦人の高橋和枝副会長が「比例定数削減のねらいは、消費税増税反対・普天間基地をなくせという声を締め出すこと。九団体主催の九・二九学習会の成功を力に、阻止のため全力をあげたい」と決意を述べ、女性の憲法年連絡会の榎本さんが「悪い国会議員は減らせの声に、訴える力を持つとう。ムダを省けと言うなら思いやり予算や政党助成金こそ減らすべきだ」と発言、たたかう決意を固めました。

学習決起集会(九・二九) 大黒全労連議長の主催者挨拶(要旨)

今日の学習会は、民主党が進める衆議院比例定数八〇名、参議院四〇名の国会議員の定数削減問題で、その危険な内容を学習し、新たに国民的世論を構築するための意思統一の場にと考えています。

菅内閣は、自公政権以上にアメリカ言いなり、大企業の横暴な支配と構造改革を推進・加速させようとしています。ねらいは、辺野古への米軍基地建設、消費税の引き上げ、「地域主権改革」を旗印に住民に選択と負担の強要を迫ることにあります。そして、衆議院比例定数八〇削減を行って、「強権政治」を合法的に行うとしています。

しかし、耐えがたい生活苦の中で、「平和とくらしの向上」を求める国民との矛盾はますます深まり、その改善に向けた、たたかうエネルギーが蓄積されています。このことを見据え、「比例定数削減反対、国民の意思が反映する選挙制度を」の国民的世論を作り出す必要があります。

国民が自民党政治を退場させ、新しい政治システムの模索を始めたこの時期に、国政でも地方政治でも形を変えた逆流を許すわけにはいきません。憲法九条や二五条を生かした平和とくらし、民主主義の向上、沖縄県知事選挙で伊波知事を誕生させ、地方政治の転換が社会の閉塞状況を打開する契機となるよう、学習し行動しようではありませんか。